

兵高教組

青年部通信

2013年11月18日

4号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>

mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

参加と共同の学校づくり・教育課程づくり 交流集会に参加して

全教主催の子どもの実態を出発点にした「参加と共同の学校づくり・教育課程づくり交流集会」が、11月9日・10日で開催されました。兵庫高教組からは三名の参加があり、参加した青年教職員の感想を紹介します。

全体の感想です。

共生の学力

さまざまな発表がありました。いちばん心に残っているのは、島根の小学校での取り組みで、70人で餅をつくというもの。「共同して活動する力こそが、共生の学力であり、それ以外のは、競争の学力である」という考えです。私も、高校の現場で共生の学力を追求する授業を展開したいです。ただ、大学入試があるため、高校では、なかなかむずかしい。しかし、だからこそ、追い求める価値がある理想だと思えます。

組合員の感想より

《参画と共同の必要性》

多様な学びを持って自分の頭で考え行動できる子どもの育成、大学以降に本当に自分の力で進路を切り開く力を育てるために、目の前の生徒の成長、進路をこれほどまでに真剣に議論する場があること、そして多くの実践例を聞くことができ勉強になりました。「点数はとってもそこに知的好奇心はない。」「一方的に評価する、される構造ではなく参画共同の必要性の視点を持った、そしてその可能性を模索する教員の育成が必要である。」この研修で印象に残った言葉です。常に問題意識を持ちながら一人の先生として今求められる教育を考えていきたいと思えます。

組合員の感想より

二日目の分散会の内容と感想です。

分散会 「いじめ」と学校づくりの課題 ～憲法と子どもの権利条約をどう生かすか

北海道富良野高校の実践報告から、学校評価・授業評価のアンケート項目についての議論から出発し、各学校の授業改善、参画型の学校づくりに向けた活動報告、参画と共同の学校づくり、教育課程づくりに私たちができることについて議論が行われました。

学校評価・授業評価のアンケート項目について
北海道、富良野高校ではアンケート項目の主語を

「子どもは～」に変えること、また「自分の子供の成長にご自身ができることはありますか。」と子どもを中心として教員と保護者がお互いに努力・反省するように工夫しているとのこと。単に教員側のデスクワークを増やすのではなく、かつ何か新しい制度や仕組みを導入しようとするのではなく、すでにあるもの・しなければいけないものを作りかえる発想、工夫し活かす発想への転換を松代先生は主張されました。

各学校の授業改善、参画型の学校づくり

高校の教育課程こそ、将来その子どもが人間性を試されたときに発揮できる力を育成する教育課程づくりが必要。

教員自身が自分の教科の必要性、また普通教科の必要性を主張できるようにすること。教科どうしの連携、またその枠を超えた繋がりを創造する教育課程、授業が必要。

保護者との面談の機会を大切にする。いじめに関してはきめ細かい面談や懇談会を設け、防止策作りに努める必要がある。

一人から始める参画共同。組合員を増やさねば、また参画共同の視点を持った教員の育成の必要性があると話し合われた。

保護者に求められるもの

懇談会や学級通信、また子どもとの会話から学校への関心を高める。

自身の願いや願望を明確に持ち、それに自身が取り組めることに関しても考える機会を持つ。

「地域」の可能性

高校生は地域に自分たちの力や今まで学んできたことを還元できる力がある。地域の人と交流する回数・頻度を増やし交流する機会を設けていく必要がある。教科や教育のことに関する専門家以外の意見やその地域の環境、知恵を大切にするべきだ。授業や行事を通して開かれた学校づくりに参画し自分たちで教育を作り上げる感覚を地域で持つことが必要。

青年部学習会 & 忘年会

12月7日(土) 15:30～17:30

場所は高教組会館(JR元町駅近郊)

学習会 高教組とはこんな組織

青年部交渉報告

忘年会 18:00～元町にて